

「はじめに神が天と地を創造された。…神は人をご自身のかたちとして創造された。」

(創世記1章1節・27節)

自然の中から垣間見える神

前半部分は、聖書の最初に書かれているみことばです。

「この天地はどうやってできたのか？」そんな難しい問題に対し、聖書は非常に簡潔に答えています。「神が天と地を創造された」のだと。

確かに、美しい自然を見た時に、私たちはその素晴らしさに感動を覚えます。長野市から北信五岳を眺める時、松本・安曇野から北アルプスの山々を眺める時、「何という美しさだろう…」と感動するのは私だけではないと思います。また、実際に登山してみると、山頂からの絶景に息をのみます。元日に初日の出を目にすると、新年の幕開けを予感し、新鮮な思いになります。夏の新緑、秋の紅葉、冬の雪景色を見るだけで、私たちの心は感動で満たされます。自然には、私たちを楽しませたり、癒しを与えたりする魅力と力があふれています。まるで、自然が私たち人間のためにあるかのようです。ある人は言いました。「自然を見れば神がいらっしゃることが分かる」と。



さあ、読者の皆様はどうお考えになるでしょうか？

神はこの天地だけでなく、動植物や人間、すべてのものを創造された、と聖書は語ります。つまり、自然も、動植物も、人間も、設計者なる神によって創造されたというのです。もし、何も無い砂漠に精巧な腕時計が落ちていたら、腕時計が風や砂粒の摩擦によって偶然にできたと考える人はいません。「誰かが落とすに違いない」と誰もが考えるのではないのでしょうか。



そして、その腕時計はどこかの時計職人によって作られたと考えるのが普通です。同じように、私たち人間も偶然でできたわけがありません。人間は時計よりはるかに緻密で精巧に造られているからです。まるで誰かがそのようにプログラムして造ったとしか言いようがないほどです。私たちは“人間は進化の過程を通過してきた”“進化とは偶然の産物だ”と学校で教えられてきました。もし私たち人間が偶然にできたのなら、私たちの人生はなんと無価値で空しいものでしょうか。しかし、聖書は、神が人を創造された、と語ります。しかも「ご自身のかたちとして」創造されました。ここに、私たち一人一人をかけたがない存在として創造して下さった神の愛が表されています。また、私たち人間と関わりを持つとされる神の慈しみ、私たちの人生には意味があることを示そうとされる神からのメッセージがあります。



どうか今年が、創造主なる神を親しく覚え、神とともに歩む幸いな一年となりますように。(M)